

目で見える都留市の健康V

成人編 その1

今回から三回にわたり成人期の健康について紹介します。一回目は「死亡統計」に関することです。

死亡の一位はガン

死亡原因の五位までを十年前と比べてみると、図1のとおり昭和五十七年に三位だったガンが一位に、一位だった心臓病が二位に、二位だった脳卒中が三位にと、三大死因の順位が入れ替わっています。

四十歳代の死亡の六割が脳卒中

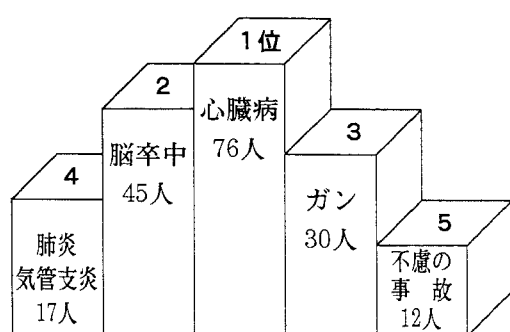
しかし、年令別死亡割合を死因別に見てみると、図2のとおり、働きざかりの四十歳代では全体の六割が脳卒中で死亡しています。また、ガンによる死亡は年齢とともに増加しています。八十歳代では老衰が一位となっています。

部位別ガン死亡の一位は胃ガン

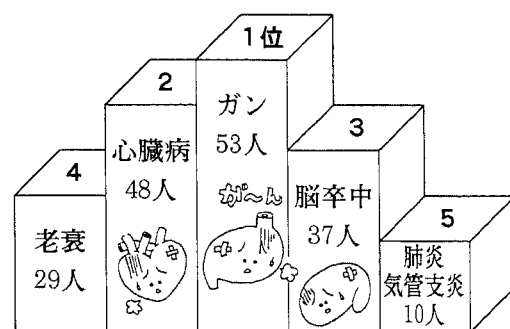
おもなガンについて十年間の傾向を追ってみると、図3のとおり部位によって差がみられます。①胃ガンによる死亡は毎年一位です。昭和六十年と、昭和六十三年にピークが有りますが、全体的には減少してきています。②肺ガンによる

死亡には大きな変化は見られませんが、平成四年には増加しています。③膀胱ガンは平均して三位ぐらいを位置しています。④肝臓、大腸ガンについては、出入りが激しく一定の傾向はみられません。死亡原因の六割前後が成人病と言われるガン、心臓病、脳卒中で占められています。これらの病気の予防のためには、若年層からの動脈硬化や血圧などの健康管理やガンの早期発見のために各種検診や、健康相談、健康教育などを積極的に活用して、人生八十年といわれる時代を健康的に生きられるよう、努力していきましょう。

図1 原因別死亡順位



昭和57年(総数224人)



平成4年(総数240人)

図2 年齢別死亡割合

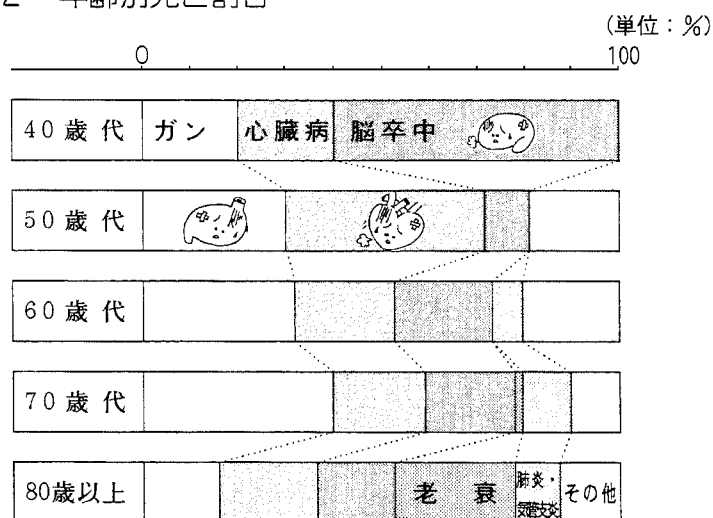


図3 ガン部位別年次推移 (単位：%)

